

財政公表

市のお金の使いみちは？

市では、年2回財政状況を市民の皆さんにお知らせしています。
今月号では、平成24年度各会計決算状況（7・8ページ）と平成25年度各会計予算の上半期執行状況（9ページ）をお知らせします。

田村市の3つのお財布

市のお金を出し入れするために、3つのお財布を用意しています。
通常出し入れするお金は「一般会計」、そして特定の事業のために使う「特別会計（六官企業（水道事業）会計）」です。
特別会計も10の仕切りで分かれていて、それぞれの目的以外には使わないことになっています。

一般会計の決算の状況は

24年度の一般会計の決算額は、歳入総額が255億3,028万1千円、歳出総額が241億6,774万4千円となり、差し引き額より25年度に繰り越した事業に充当した財源を差し引いた実質収支

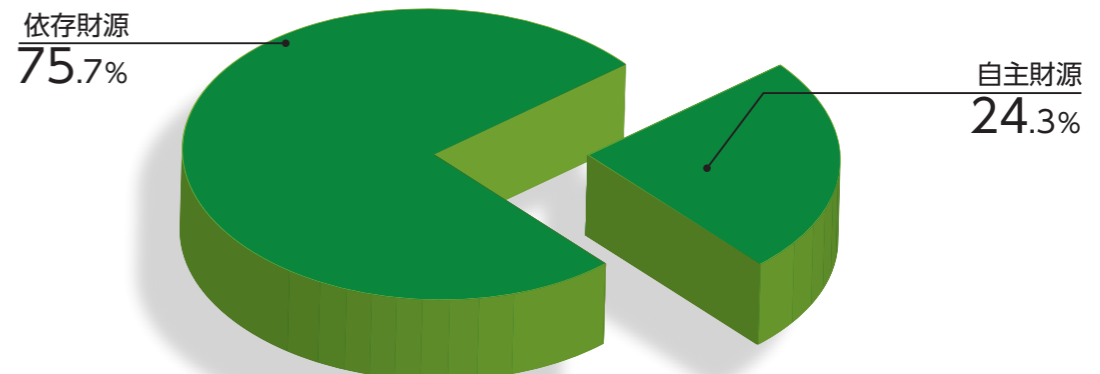
額は11億5,068万5千円となりました。

市の財政状況の分析

市に入ってくるお金（歳入）の中には2つの財源で成り立っています。
市が、自主的に収入できる市税や使用料、手数料などの自主財源と、これに対して、国や県から入るお金や借金をまかなう依存財源です。

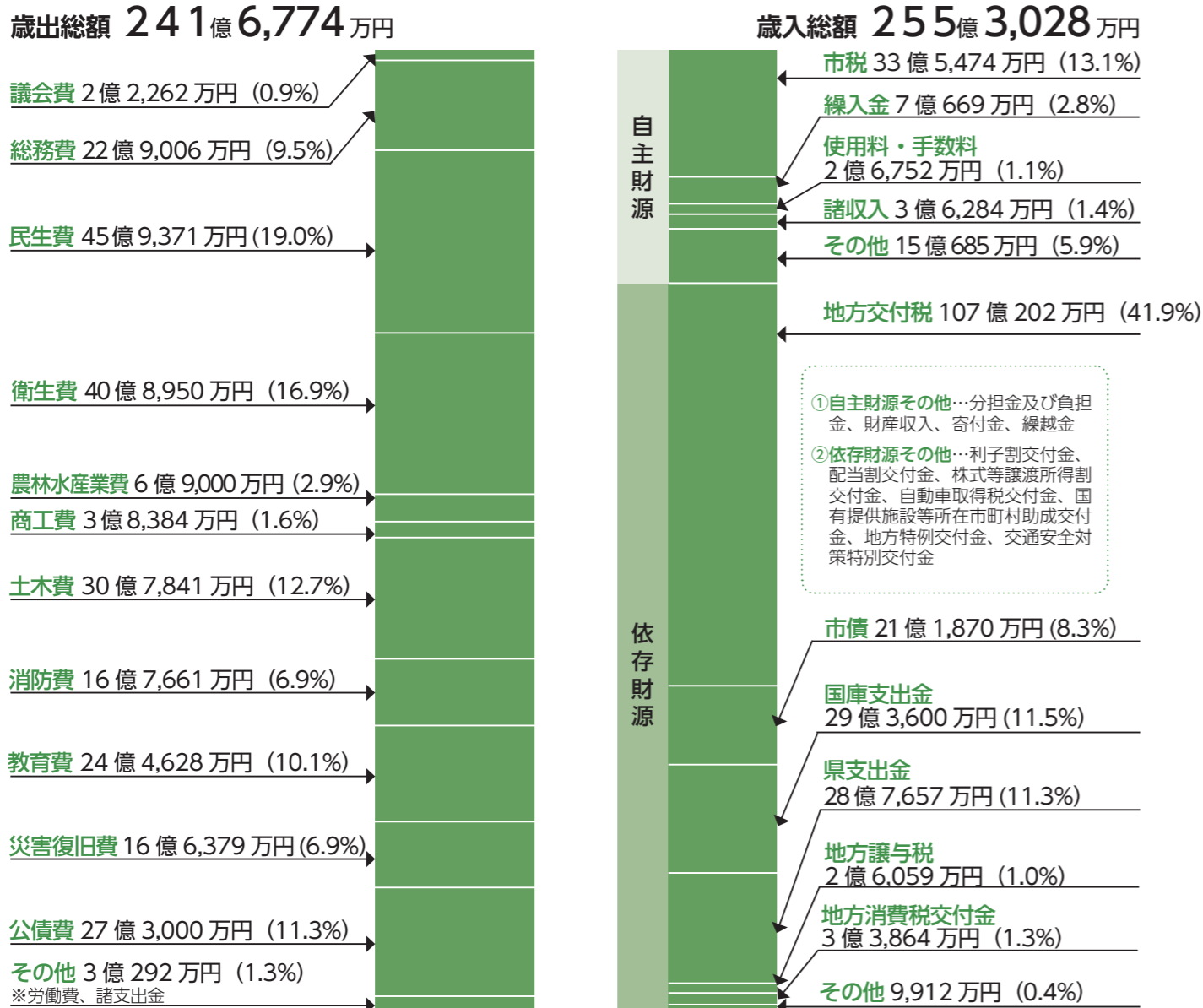
市の一般会計歳入決算額に占める自主財源（市が自主的に収入できる市税や使用料、手数料など）の割合は24.3%と低く、地方交付税などに大きく依存している状態です。また、経常収支比率は86.6%、財政力指数は0.31と依然として財政の硬直化が進んでいます。

このような状況を踏まえ、なお一層の行財政改革、財源の確保、経費の節減などに努めながら「あぶくまの人・郷・夢を育むまち」はつらつ高原都市「田村市」の実現に向けた取り組みを進めていきます。



厳しい状況をふまえ、健全な財政運営に努めます。

1 平成24年度 一般会計の決算額内訳



用語の解説

【一般会計と特別会計】
地方公共団体の会計には、一般会計と特別会計があります。一般会計は、福祉や教育、土木などの市の行政運営のうち、一般的な事業の経費を管理する会計です。特別会計は、特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理する会計です。

【歳入】
地方公共団体が、その仕事を行うために必要な経費をまかなうものが収入で、その団体の会計年度における一切の収入を歳入といえます。

【自主財源】
市税や使用料、手数料などが市が自主的に収入できるお金

【依存財源】
地方交付税や国・県支出金、市債など、国や県から交付されるお金

【市税】
市民の皆さんから納めていただく税金

【地方譲与税】
所得税や自動車重量税などの国税の一部が譲与されるお金

【地方消費税交付金】
地方消費税の一部が交付されるお金

【国庫・県支出金】
特定の用途のために国や県から交付されるお金

【繰入金】
一般会計、特別会計、基金（市の預金）等の会計間で移動するお金

【諸収入】
市の預金の利子や貸付金の元利収入などのお金

【市債】
市の事業や国の施策により発行した借入金

【歳出】
上の棒グラフでは、市が行う事業に必要な経費を目的別に分類しています。行政サービスの水準や行政上の特色を知ることができます。

【議会費】
議会運営のための経費

【総務費】
行政全般の事務や庁舎などの維持管理に使われる経費

【民生費】
高齢者や障がい者、子育て支援、生活保護などのために使われる経費

【衛生費】
各種健診や予防接種、ごみ処理、ごみ減量化の推進などに使われる経費

【農林水産業費】
農林業の振興や農林道の整備、土地改良事業などに使われる経費

【商工費】
商業の振興や商工業金融対策、観光振興などに使われる経費

【土木費】
道路の整備や維持補修、河川の整備、都市計画、市営住宅管理などに使われる経費

【消防費】
広域消防組合負担金や消防団運営、消防施設の整備、災害対策などに使われる経費

【教育費】
幼稚園、小・中学校などの教育、文化、スポーツの振興などに使われる経費

【災害復旧費】
被災した公共施設を復旧する経費

【公債費】
学校や道路など、たくさんのお金がかかるものですが、この借入金（市債）を返済していくために使われる経費

【その他】
他の支出科目に含まれない経費をまとめたもの。各種基金への積立金などがあります。